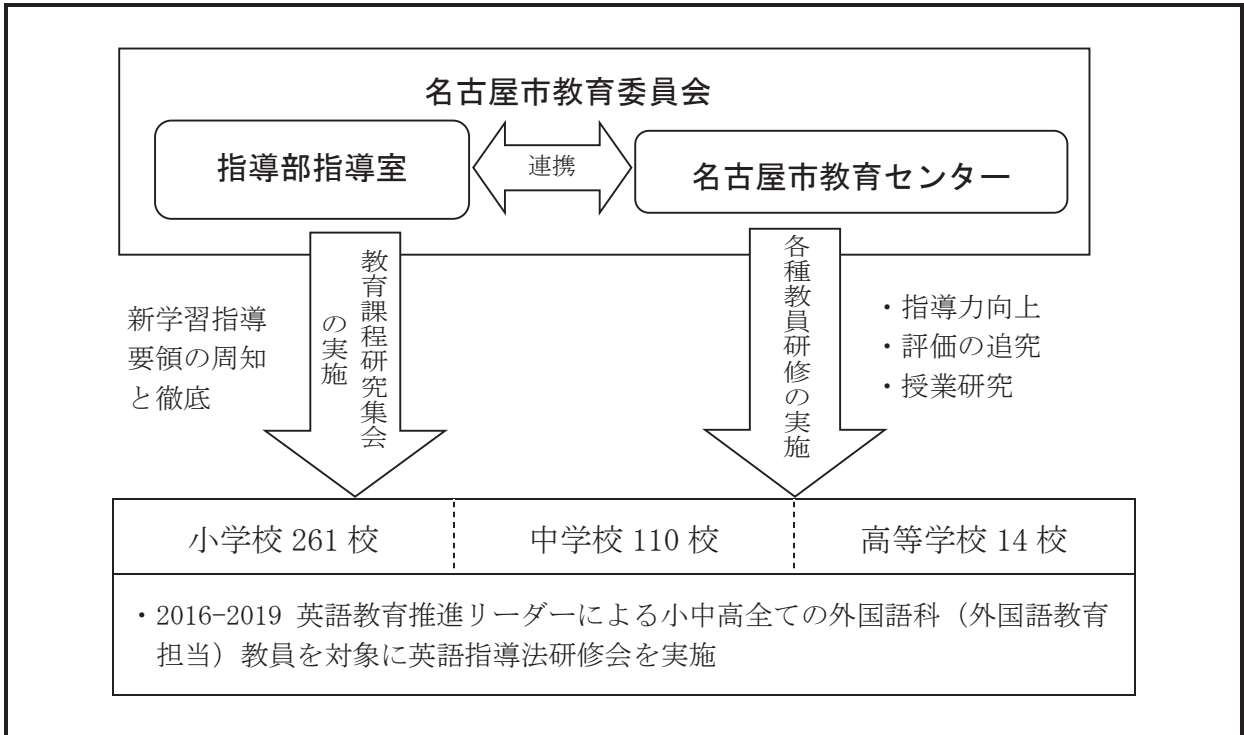


名古屋市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

<高等学校>

① 求められる英語力を有する担当教員の全英語担当教員に占める割合

2020 年度	2021 年度	2022 年度
75.0%	75.0%	75.0%

2016 年度より全ての英語教諭を対象に実施した英語指導法研修の成果もあり、2019 年度は目標値に達している。今後も教員研修でその成果を引き継ぎながら、教諭の自己研鑽を奨励していく。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

2020 年度	2021 年度	2022 年度
50.0%	50.0%	50.0%

名古屋市立高校は各校特色ある教育課程を実施しており、生徒の学力も多様であるが、市立高校全体で高校生に求められる CEFRA 2 レベル相当以上の生徒数は、2019 年度は目標値に達している。今後もその成果を引き継ぎ、生徒の英語力向上につながる英語教育を推進する。

③ 「CAN-DO リスト」形式で設定した学習到達目標の整備状況

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
設定 (%)	100.0%	100.0%	100.0%
公表 (%)	60.0%	80.0%	100.0%
達成状況の把握 (%)	70.0%	75.0%	80.0%

ほぼ全ての市立高校で CAN-DO リストが作成されているが、公表している学校は約 1 割にすぎないことが本市の課題である。公表して「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を生徒と共有し、学習の振り返りや外国語学習への意欲向上につなげていくことを周知徹底する。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合（使用率 50%以上）

2020 年度	2021 年度	2022 年度
55.0%	55.0%	60.0%

2016 年度より全ての英語教諭を対象に実施した英語指導法研修の成果もあり、2019 年度は目標値に達している。今後もその成果を引き継ぎ、公開授業や英語指導法を学ぶ機会を設定し、英語の授業改善を推進する。

⑤ パフォーマンステストの実施状況

	科目名	2020 年度	2021 年度	2022 年度
スピーキングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ	3 回	4 回	4 回
	コミュニケーション英語Ⅱ	3 回	4 回	4 回
	コミュニケーション英語Ⅲ	3 回	4 回	4 回
	英語表現Ⅰ	3 回	4 回	4 回
	英語表現Ⅱ	3 回	4 回	4 回
ライティングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ	3 回	4 回	4 回
	コミュニケーション英語Ⅱ	3 回	4 回	4 回
	コミュニケーション英語Ⅲ	3 回	4 回	4 回
	英語表現Ⅰ	4 回	5 回	5 回
	英語表現Ⅱ	4 回	5 回	5 回

現状は、全ての科目において目標値を下回っている。授業における言語活動時間が半分以上を占めることを踏まえ、指導と評価の一体化を図る指導を徹底し、評価方法やパフォーマンステストの実施方法について研修や実践方法の共有を行う。

⑥ 授業における英語担当教員の英語使用状況（使用率 50%以上）

2020 年度	2021 年度	2022 年度
50.0%	55.0%	60.0%

現状は、目標値をやや下回っている。教員が英語を使って生徒の言語活動を積極的に展開する授業例を、研修や授業研究をとおして共有し、授業改善を促進する。

< 中学校 >

① 求められる英語力を有する担当教員の全英語担当教員に占める割合

2020 年度	2021 年度	2022 年度
47.0%	48.0%	50.0%

教員の英語という言語に対する知識は適切な言語活動の実施には欠かせない。また、英語を使用する教師の姿は生徒にとってよいロールモデルとなる。それらの点からも教師の英語力は重要である。特設で研修を設ける予定はないが、研修において（特に対象人数が多いもの）AETを活用する、研修のコマの一部を英語で行う、などの工夫をする。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

2020 年度	2021 年度	2022 年度
45.0%	45.0%	50.0%

2019 年度より 3 年に一度、全国学力学習状況調査が行われる。4 技能 5 領域を伸ばすことができるよう、調査問題及びその結果を活用した授業改善ができるよう、教育課程研修会を活用して、全市の教員に授業改善のポイントが伝わるようにする。

③ 「CAN-DO リスト」形式で設定した学習到達目標の整備状況

年度	2020年度	2021年度	2022年度
設定 (%)	100.0%	100.0%	100.0%
公表 (%)	40.0%	80.0%	100.0%
達成状況の把握 (%)	70.0%	80.0%	100.0%

本市においては、CAN-DO リストの公表は行っているが、達成状況の把握は十分とは言えない。達成状況を把握することで、生徒の英語の習得状況を把握し、授業改善の重要なエビデンスの一つとなることから、教育課程研修会で把握に努めるよう依頼していく。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合（使用率 50%以上）

2020年度	2021年度	2022年度
80.0%	90.0%	100.0%

この2年間で活動時間の割合が大きく変化が見られることはなかった。新学習指導要領における言語活動は、「目的・場面・状況」の設定がより一層重要となるので、経年研修や指導主事の訪問等で重点的に指導・助言していく。

⑤ パフォーマンステストの実施状況

年度	2020年度	2021年度	2022年度
スピーキングテスト	4回	5回	5回
ライティングテスト	4回	5回	5回

パフォーマンステストの重要性の理解は進んでいるものの、ライティングテストの実施については、なかなか進んでいない現状である。実施方法や、実施学年、内容についてより充実したものとすよう、指導主事の学校訪問や教育課程研修会等で例を示していく。

⑥ 授業における英語担当教員の英語使用状況（使用率 50%以上）

2020年度	2021年度	2022年度
80.0%	90.0%	100.0%

割合は、少しずつではあるが、増加しており、教員の意識の変容が見られる。新学習指導要領では、英語による授業が掲げられており、生徒も教師も英語を用いてコミュニケーションを図ることができるよう、各種研修会でも英語使用の重要性を伝えていく。

<小学校>

① 学習到達目標の整備状況

年度	2020年度	2021年度	2022年度
設定 (%)	50.0%	75.0%	100.0%
公表 (%)	50.0%	75.0%	100.0%
達成状況の把握 (%)	50.0%	75.0%	100.0%

2022年度において学習到達目標の整備状況が、設定、公表、達成状況の把握のいずれにおいても、100%になるよう段階的に割合を上げていく。初年度である2020年度は、資料を提示し、学習到達目標を設定し、公表、達成状況の把握をすることの重要性を伝えていく。

<専科>

【小学校専科】 小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
割合 (%)	12.5%	17.5%	25.0%	32.5%	35.0%	50.0%
人数 (人)	30人	40人	50人	65人	75人	90人

2025年度において小学校の新規採用者の50%以上が一定の英語力を有した者となるよう段階的に割合を上げていく。2020年度は、採用試験における特例の見直しを検討したり、近隣大学に英語力を有した学生の名古屋市受験を働きかけたり、英語力の育成を働きかけたりする。

(3) 研修の体系と内容の具体

本市における教員研修は名古屋市教育センターが主に実施する。教科指導の理解を高めながら、学習指導の在り方を追求する。研修には、大きく分けて、基本研修、専門研修、長期研修の三つがある。基本研修には、経年研修が含まれる。本市では、初任者、5年目、10年目の教員を対象に、経年研修を行っている。

<高等学校>

1 基本研修Ⅰ（経年研修）

(1) 高等学校初任者研修会〔高校初任研〕

ア 第1回 5月（中学校参観と授業の研究）

中学校における授業参観や研究協議を通して、授業づくりの基本を理解するとともに、今後の授業改善に役立てる。

イ 第2回 6月（高等学校探究セミナー）

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために、理論を学び、演習を通して実践力を養う。

ウ 第3回 7月（教科指導実践）

新学習指導要領の目標等を踏まえて、模擬授業と研究協議を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの指導方法について理解する。

エ 第4回 10月（教科別教科指導法）

初任者、5年研受講者、10年研受講者と合同で実施し、代表者による研究授業の参観と、研究協議を通して、授業づくりの基本について更に理解を深め、指導力の向上を図る。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するため、観点別学習状況の評価について理解する。

オ 第5回 1月（高等学校各科研修講座）

最新の教育動向、新学習指導要領を踏まえ、授業力等の更なる向上を図る。

(2) 高等学校教職経験者研修会〔高校5年研〕

ア 第1回 4月（教科指導実践1）

新学習指導要領の目標等を踏まえて、研究協議を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの指導方法について理解する。

イ 第2回 6月（高等学校探究セミナー）

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために、理論を学び、演習を通して実践力を養う。

ウ 第3回 6月（教科指導実践2）

新学習指導要領の目標等を踏まえて、模擬授業と研究協議を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの指導方法について理解する。

エ 第4回 10月（教科別教科指導法）

初任者、5年研受講者、10年研受講者と合同で実施し、代表者による研究授業の参観と研究協議を通して、授業づくりの基本について更に理解を深め、指導力の向上を図る。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するため、観点別学習状況の評価について理解する。

(3) 高等学校中堅教諭等資質向上研修〔高校10年研〕

ア 第1回 6月（高等学校探究セミナー）

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために、理論を学び、演習を通して実践力を養う。

イ 第2回 10月（教科別教科指導法）

初任者、5年研受講者、10年研受講者と合同で実施し、代表者による研究授業の参観と研究協議を通して、授業づくりの基本について更に理解を深め、指導力の向上を図る。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するため、観点別学習状況の評価について理解する。

2 基本研修Ⅱ

○ 高等学校教育課程説明会

新学習指導要領の周知と徹底を行うとともに、新教育課程の実施に向けて各校が抱える課題を事前に集約し、その解決と各校の実践を協議する。年1回、各校代表者が参加し、報告・協議の形式で行う。

3 専門研修

○ 高等学校各科研修講座

最新の教育動向、新学習指導要領を踏まえ、授業力等の更なる向上を図る。年1回、各校代表者が参加し、講義・協議・演習等の形式で行う。

<中学校>

移行期間の最終年度であることから、新学習指導要領の全面実施に向けた意識改革を図ることができる内容となるように努める。研修の増設といったような変更をすることは、昨今の働き方改革等から鑑みても難しいため、既存の研修の中身（質）の向上または、焦点化を図るといった工夫が現実的である。今後は、英語教育実施状況調査や平成31年度実施の全国学力学習状況調査等の結果を踏まえ、本市における生徒の英語力及び指導力双方の課題克服につながるよう、経年研修と専門研修において、研修を進める。

<小学校>

移行期間を経て、新学習指導要領の全面実施となる本年度は、教科化に対応するべく、基本研修においては、外国語活動・外国語科の指導と評価についての理解をとともに技能の習得を図る。また、専門研修は外国語活動、外国語科を分けて実施する。

1 基本研修Ⅰ（経年研修）

(1) 初任者研修（受講予定者15人程度）

ア 第1回目 5月

Ⓧ 授業づくりの基礎を学ぶ。2年度は特に新学習指導要領を基にした、言語活動の在り方について学ぶ。ICT（指導者用デジタル教科書）の特性を生かした授業づくりについて学ぶ。

- ④ 外国語活動・外国語科の授業づくりの基礎を学ぶ。特に、どのような言語活動を設定すれば、その単元が目指す目標に到達できるか、また、その言語活動を行うために、どのような活動を段階的に行わなければならないのかという単元構成の工夫の仕方と評価について学ぶ。

イ 第2回目 6月

- ④④ 示範授業の参観。参観後の協議では授業内で行った言語活動及び授業内評価を中心に協議する。

ウ 第3回目 夏季休業中

- ④ 言語活動を中心に据えた模擬授業をグループで立案し、模擬実演をする。協議では、実演の中で行った言語活動は、学習指導要領に沿ったものになっているかについて協議する。また、授業内での生徒の評価についても協議する。

小学校外国語の指導経験がある現場教員に講師を依頼し、小学校外国語活動、外国語科を体験する。

- ④ 夏季休業中は、日頃外国語科の班を選択していない小学校の新規採用者を対象に研修を行う。指導者用デジタル教材を活用した外国語活動・外国語科の授業の進め方や、授業での適切な言語活動の行い方について学ぶ。

エ 第4回目 10月

- ④④ 受講者の代表者による授業研究。授業後の研究協議では、授業内で行った言語活動の効果及び授業の目標に対する生徒の到達度等について話し合う。

(2) 教職経験者研修〔5年研〕（受講予定者15人）

ア 第1回目 5月

- ④④ 受講者一人一人が年間で取り組む研究テーマについて、生徒の実態を捉え、外国語科で身に付けるべき「資質・能力」を育むための手立てが講じられているかを協議する。

イ 第2回目 7月

- ④④ 受講者一人一人の1学期実践について振り返る。その際、各校種で求められる「資質・能力」を高めるために講じた手立ての有効性を協議する。また、パフォーマンステストを含めた評価の場面について共有することで、規準や基準について理解する。

ウ 第3回目 8月

- ④④ 代表授業の指導案の検討。授業の目標が達成できるような指導過程を受講者全員で考え、1時間の指導過程を模擬で実施し、授業での目標に対する効果について検証する。

※ 外国語の免許を保有しない者が多いことから、小学校籍の受講者全員を対象に、外国語活動の授業づくりの在り方について講義を夏季休業中に行う。

エ 第4回目 10月

- ④④ 受講者のうちの代表者による授業研究。授業後の協議会では、第2・3回目の研修で協議したのち、反映させた指導過程、指導内容がその授業内で効果的に機能していたかを協議する。また、評価については、児童生徒の授業内での取組の様子を踏まえて、評価の規準の妥当性について考える。

オ 第5回目 2月

- ④④ 1年間のそれぞれの研究テーマについて、年間の実践の振り返りをする。振り返る視点は「資質・能力」を育むための指導が貫かれていたか、について行う。また、指導と評価の一体化についても振り返られるようにする。

(3) 中堅教諭等資質向上研修 [10年研] (㊤15人程度 ㊦10人程度)

ア 第1回目 5月

㊤ 年間で取り組む課題研究についてテーマ設定の妥当性について協議する。小学校外国語活動の学習をどのように中学校の学習に生かそうとしているかを明らかにする。

㊦ 年間で取り組む課題研究についてテーマの妥当性について協議する。小学校段階でどのようなことをどのように指導するべきかを明らかにする。

イ 第2回目 7月

㊤ 1学期の実践の振り返りをする。小学校外国語活動とのつながりを意識した実践について報告し合い、その成果と課題から2学期以降の実践にどのように反映させるかを共有する。特に、2学期実践では、小学校外国語教育からのつながりを意識し、学習した表現を駆使して、「伝わった」「分かった」という達成感が得られるような、AETとのTTの工夫を実践に取り入れるよう助言する。

※ 本市の小学校外国語活動は、担任と英語が堪能な地域人材とのTTを総授業時間の約3分の2時間行っている。

㊦ 1学期の実践の振り返りをする。外国語活動と外国語科の目標を意識した実践について報告し合い、その成果と課題から2学期以降の実践にどのように反映させるかを共有する。特に、2学期実践では、「言語や文化について体験的に理解を深め」（外国語活動）、「言語活動を通して」（外国語活動・外国語科）、コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成するよう助言する。

ウ 第3回目 8月

㊤ 2回目の研修を踏まえて、2学期の授業実践計画の具体を発表する。協議では、1学期の課題を克服するための手立ては、研究テーマの達成にどの程度効果的であるかとする。また、生徒が小学校外国語で学んだことを中学校英語科ではどのような日頃の指導の工夫があるかを全体で共有する。

㊦ 2回目の研修を踏まえて、2学期の授業実践計画の具体を発表する。協議のポイントは、1学期の課題を克服するための手立てやTTは、研究テーマの達成にどの程度効果的であるか、とする。

※ 外国語の教員免許状を保有しない者が多いことから、小学校籍の受講者全員を対象に、外国語活動の授業づくりの在り方について夏季休業中に講義を行う。

エ 第4回目 1月

㊤㊦ 中堅教諭としての資質能力を高めることが本研修の趣旨であることから、教科指導のみならず、校内でのミドルリーダーとしての力量向上が求められる。1年間の課題研究を通して、小中接続を意識した授業づくり及びその実践、成果と課題の検討を行うことで、異校種や他教科とのつながりを意識したカリキュラム立案に活かせるようにする。

(4) センター指導主事による学校訪問

(2)と(3)の受講者のうち、希望する者は、教育センター指導主事の訪問指導が可能である。受講者一人一人が設定したテーマと実際の授業や子どもの姿にかい離がないか、実際の授業の参観を通して、指導主事が助言をする。その単元にふさわしい言語活動が行われているか、授業内における生徒への評価（フィードバック）は適切か、子ども達の、外国語に対する学びに向かう力をもてるような支援ができていないか、などの観点で指導する。

2 基本研修Ⅱ

○ 小学校・中学校教育課程研修会（合同開催）（32人）

指導部指導室指導主事による伝達講習及び、各区内で取り組んでいる小中接続のための取組について共有する。

3 専門研修

- 「アイデアいっぱい!楽しい授業づくり講座」

(㊤40人程度×2コマ 計80人程度 ㊦40人程度×36コマ 計1440人程度)

- ㊤㊦ 基礎的な指導方法を学ぶとともに、子どもが興味・関心をもち、楽しく学習することができる教材や学習方法等について学ぶ。希望者を対象に夏季休業中に行う。

- ㊤テーマ: Updated Styles of Teaching

小学校で指導する現職の教員を講師のうちの一人とし、小学校外国語活動及び小学校外国語科の目標やその実際について、模擬授業を通して体感する。また、新学習指導要領に基づいたAETとのTTの在り方について実演を交えて研修する。また、新しい評価の観点に沿って、パフォーマンステストの評価について研修する。

- ㊦テーマ「子どもが生き生きと活動する外国語活動の授業づくり」(外国語活動)

外国語活動の目標やその実際について、模擬授業を通して体感する。また、児童が興味をもち、必然性のある言語活動の進め方について、実演を交えて研修する。

- テーマ「担任単独で進める小学校外国語の授業づくりと評価のポイント」(外国語科)

外国語科の目標やその実際について、模擬授業を通して体感する。また、指導者用デジタルブックの効果的な活用の仕方、「聞く」「話す」に「読む」「書く」を加えた授業の進め方について実演を交えて研修する。また、新しい評価の観点に沿って、パフォーマンステストの評価について研修する。

4 長期研修

- 教育研究員

経験年数8年目以上の教諭の希望者に、年間を通して、具体的な問題を究明し、教員の資質向上を図る。

